

新技術名：展着剤（ニーズ）による殺菌剤の効力増強（平成3～6年）
（トップジンM水和剤の効力増強）

●・参

研究機関名 果樹試験場鹿角分場
担 当 者 水野 昇・大隅専一

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

カチオン系新展着剤であるニーズをトップジンM水和剤に加用し、モニリア病に対する治療効果を高める。

○経過と方法

圃場で接種により発病させたモニリア病葉上病斑（葉ぐされ）に対して、トップジンM水和剤にニーズを加用した区及び無加用区を設け、葉ぐされに形成される分生胞子の形成抑制効果及び病斑拡大阻止効果を調査した。

○技術の要旨

トップジンM水和剤1000～1500倍液にニーズ1000倍を加用することにより、トップジンM水和剤単用に比較し、胞子形成阻止及び病斑拡大阻止効果ともに顕著に高めることができた。

(2) もたらされる効果

散布時期が遅れると治療効果が不十分であったトップジンM水和剤の効果を高めることができ、安定した防除効果が得られる。

(3) 普及対象範囲

全県（リンゴ）

(4) 普及上の留意事項

1. 葉ぐされに分生胞子が形成される前に散布する。
2. 散布は十分量とする。

(5) 発表文献等

II 具体的なデータ等

表-1 モニリア病防除試験 (治療効果) (平成3年)

供試薬剤	希釈倍数	調査時期	病斑拡大度	胞子形成病葉率	花ぐされ株率
ニーズ 62%	1000	散布時	13.9	0	0
+トップジンM W70%	1500	12日後	38.2	0	3.2
トップジンM W70%	1500	〃	18.4 54.2	0 54.2	0 0.5
トップジンM W70%	1000	〃	16.0 41.7	0 1.5	0 6.7
無 散 布	—	〃	16.2 63.8	0 59.4	0 93.3

散布月日：5/1 調査月日：5/13

表-2 モニリア病防除試験 (治療効果) (平成4年)

供試薬剤	希釈倍数	調査時期	病斑拡大度	胞子形成病葉率	花ぐされ株率
トップジンM W70%	1000	散布時 15日後	58.8 88.6	0 3.5	0 23.3
トップジンM W70%	1000	〃	48.8	0	0
+ニーズ 62%	1000	〃	74.3	2.8	9.7
ロニラン W70%	1500	〃	52.9	0	0
+ニーズ 62%	1000	〃	63.0	0.7	19.4
無 散 布	—	〃	48.3 100.	0 98.8	0 96.8

散布月日：4/30 調査月日：5/14

表-3 モニリア病防除試験 (治療効果) (平成6年)

供試薬剤	希釈倍数	胞子形成花叢率	胞子形成病葉率	花ぐされ株率
トップジンM W70%	1000	26.1	27.0	40.0
トップジンM W70%	1500	10.3	16.3	24.1
+ニーズ 62%	1000			
ロニランW 70%	1000	10.5	8.1	52.6
無 散 布	—	93.8	92.1	81.3

散布月日：5/6 調査月日：5/17

発行年月	9506	キーワード	159
基礎分類	35	キーワード	
作目名	35	キーワード	